

## ★ シロイチモジヨトウ 情報

### ネギでシロイチモジヨトウの幼虫を確認しました 今後の発生動向に注意してください

3月29日に京都府南部（南丹市～八幡市）地域で行ったネギの巡回調査において、シロイチモジヨトウの幼虫の発生を確認しました。  
この時期における発生は過去に見られないことから、今後の発生に注意してください。

#### ●ネギ栽培ほ場での発生量

表1 シロイチモジヨトウ(幼虫)の発生ほ場率 (3月29日調査)

調査ほ場数	発生ほ場数	発生ほ場率(%)
27	1	3.7

\* 1ほ場あたり100株調査

表2 幼虫確認ほ場での発生状況

幼虫数(頭/100株)	寄生株率(%)
3.0**	3.0

\*\* 3頭(若齢幼虫:2、中齢幼虫:1)

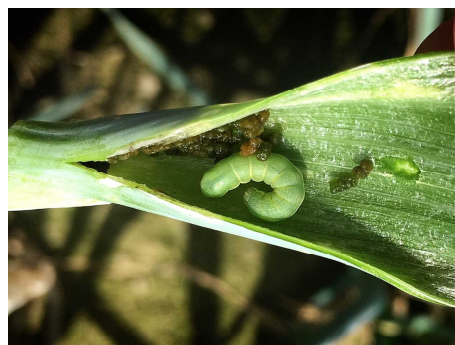


写真1 シロイチモジヨトウの幼虫

#### ●フェロモントラップへの誘殺虫数

京田辺市におけるフェロモントラップでの4月～11月の誘殺虫数は、平成29年及び30年は多く、とくに、平成30年の誘殺虫数は過去10年で最大(408.5頭)でした。

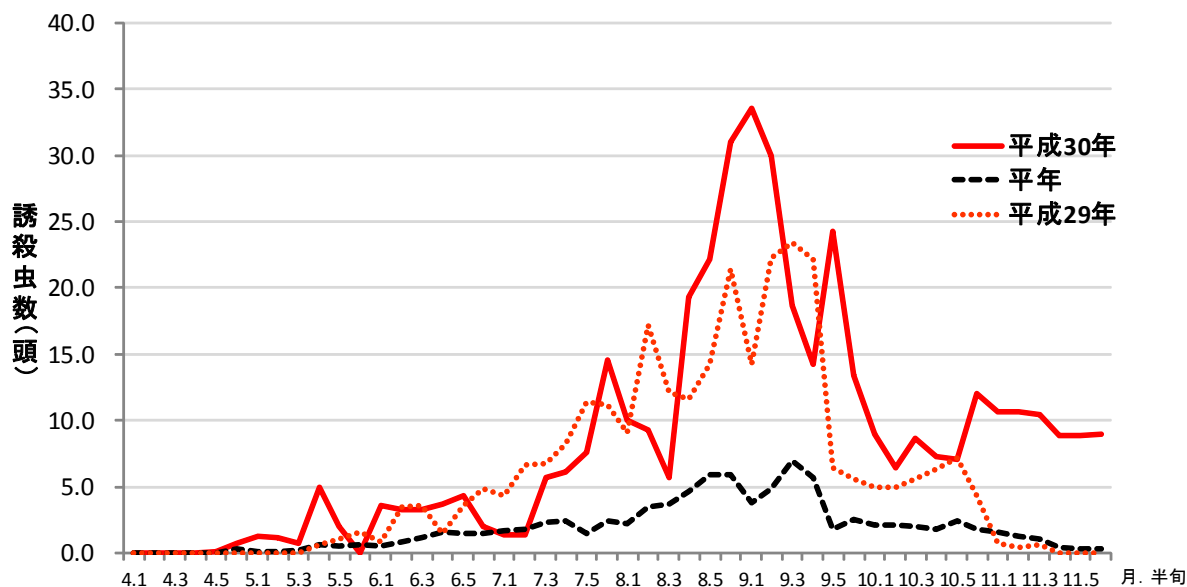


図1 フェロモントラップへのシロイチモジヨトウの誘殺虫数(京田辺市)

表3 フェロモントラップでのシロイチモジヨトウ誘殺数(4月～11月 合計(頭))

平成30年	29年	26年	25年	24年	23年	22年	21年	20年	19年
408.5	284.0	38.7	67.0	51.0	139.0	141.0	44.0	67.0	42.0

#### 防除上の注意事項

- (1) 中老齢幼虫は薬剤感受性が低下し、また、ネギでは葉の内部に潜り込むと薬剤がかかりにくく、薬剤による防除効果が低下するため、ほ場をこまめに見回り、若齢期に防除を行う。
- (2) 性フェロモン剤による交信攪乱や黄色蛍光灯を組み合わせた防除を考慮する。
- (3) 被害葉及び収穫残さは本種の発生源となるので、残さは一箇所にとめて積み上げ、表面をビニル等で被覆する等、適切に処分する。
- (4) 本種は寄主範囲が広く、ネギ以外に豆類、野菜類、花き類を加害するので注意する。
- (5) ネギでの薬剤散布は、
  - ①平成29年9月21日付け病害虫発生予察注意報第4号  
(薬剤殺虫効果試験結果掲載)  
[http://www.pref.kyoto.jp/byogai/documents/h29chui4\\_shiroichi.pdf](http://www.pref.kyoto.jp/byogai/documents/h29chui4_shiroichi.pdf)
  - ②平成30年8月1日付け病害虫発生予察注意報第3号  
<http://www.pref.kyoto.jp/byogai/documents/h30tyuiho3.pdf>
  - ③平成30年8月30日付け病害虫発生予察注意報第4号  
<http://www.pref.kyoto.jp/byogai/documents/h30tyuiho4.pdf>を参考に、使用薬剤は異なる系統のものを用い、同一系統の薬剤の連用は避ける。
- (6) 農薬を使用する際には、使用基準を遵守して適正に使用する。最新の農薬情報は農林水産省ホームページの「農薬コーナー」の「農薬情報」で確認すること。  
(<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/index.html>)